

九州大学統合移転スケジュールの変更について

六本松地区の移転については、平成16年9月に発表した移転スケジュールでは、第Ⅱステージにおいて、全学教育・比較社会文化・言語文化他を箱崎地区へ暫定移転するとしていました。
 今般、伊都キャンパスへ直接移転することによって、早期に全学教育に係る良好な学習環境の整備が可能となり、かつ教育研究が一層円滑に機能することとなること、また移転関連コストの削減も可能となることから、移転スケジュールを見直し、伊都地区へ直接移転することとしました。その他は従前の計画どおりです。

新移転スケジュール (■ 今回の見直し部分 【 】の数値は移転人数の概数)

時 期	第Ⅰステージ 平成17年度～平成19年度	第Ⅱステージ 平成20年度～平成23年度	第Ⅲステージ 平成24年度～平成31年度
伊都キャンパス への移転	工学系Ⅰ,Ⅱ 理系図書館Ⅰ 【約4.3千人】	全学教育、比較社会文化、 言語文化、数理学研究院、 高等教育開発推進センター 他 理系図書館Ⅱ 【約4.6千人】	理学系(H26) 情報基盤センター(H27) 中央図書館(H29) 文系(H29,H30) 農学系(H31) その他(H31)
	←用地再取得 平成25年度完了→		【約6.7千人】



[参考]旧移転スケジュール(平成16年9月発表)

時 期	第Ⅰステージ 平成17年度～平成19年度	第Ⅱステージ 平成20年度～平成23年度	第Ⅲステージ 平成24年度～平成31年度
伊都キャンパス への移転	工学系Ⅰ,Ⅱ 理系図書館Ⅰ 【約4.3千人】	基幹整備 新手法による整備	理学系(H26),情報基盤センター(H27) 理系図書館Ⅱ(H28),中央図書館(H29) 文系(H29,H30),全学教育(H29) 農学系,その他(H31) 【約11.3千人】
六本松から 箱崎への移転		全学教育 比較社会文化,言語文化他 【約4.1千人】	

※()内数値の移転年度は、財政状況により変動することがあります。

○ 直接移転に必要な伊都キャンパスにおける建物の整備手法について

六本松地区(寄宿舎を含む)の跡地処分収入を財源とした民間資金の借入により整備します。但し、寄宿舎の整備については寄宿料を償還財源とした民間資金の活用等による整備手法を別途検討します。
 今後、整備規模や資金調達方策等について文部科学省と具体的な協議を進め、国立大学法人法第31条に基づく中期計画の変更認可等の手続きを経て事業に着手することとなります。

○ 六本松キャンパス跡地の処分について

跡地の処分については、福岡市において設置される予定の九州大学六本松キャンパス跡地利用計画策定委員会(仮称)の議論等も踏まえ、都市計画に沿った用途に供することができるよう福岡市等と相談を進めます。
 今後、計画が具体化した時点で、国立大学法人法第31条に基づく重要な財産の譲渡に係る中期計画の認可手続きを経て、処分することとなります。